



HPはこちら

東日本ユニオン NEWS

JR東日本労働組合
発責 情報・宣伝部
2023年7月7日 No.638

第12回定期大会を開催



「ホップ・ステップ・ジャンプ」 節目を設けた運動で 組織の強化と拡大を確認！

東日本ユニオンは7月5日、東京都「田町交通ビル・大ホール」において「第12回定期大会」を開催しました。「第10回中央委員会」以降、2023春闘、2023年度夏季手当の取り組みをはじめとする総括を行い、2023年度運動方針（案）他、全ての議案が承認され、一年間の運動方針を満場一致で確認しました。

質疑では「組織拡大の実現」や「統一行動」「東日本ユニオンへ寄せられた多くのJR労働者の声や期待」などの取り組みにおける成果と課題が語られ、東日本ユニオン運動を通じて組織が強化されていることが確認できる多くの発言により、運動方針が補強されました。

中央本部は新たな中央執行体制を確立し、スタートを切りました。

**労働条件・労働環境の維持・改善・向上をめざし
JR労働者の結集を勝ち取ろう！**

大会宣言（案）

本日、私たちは東京都「田町交通ビル」において、結成から10年の節目となる「第12回定期大会」を開催した。「JR労働者が働きがいを得るJR東日本と安心を得る社会をつくろう！」をメインスローガンに、全組合員でさらなる東日本ユニオンの成長と飛躍をめざす運動方針を満場一致で確認した。

経営側はグループ経営ビジョン「変革2027」の実現にむけ、収益拡大やコストダウンを積極的に進めつつ「職場改革」「働き方改革」「業務改革」を中心とした構造改革を推し進めている。その裏では、慣れない担務への変更や異動、効率化による業務量の増加などによってJR労働者一人ひとりの負担がいままで以上に増している。会社の持続的成長の名のもとに、社員の希望や生活を置き去りにしてはならない。

急速な労働環境や働き方などの変化点にあっても、私たち東日本ユニオンは労働組合として全組合員とともに「安全」「衛生」「健康」「働きがい」「生活」などの視点から、会社施策や労働条件、職場環境や各種制度を検証し、経営側に団体交渉を通じて改善を求め提言をしてきた。

いま、歴史的な物価高騰と賃金・期末手当の低額回答による収入減が相まって、JR労働者の生活は苦しさが増すばかりである。2023春闘では「定期昇給の完全実施」を前提に、ベースアップと2021春闘で削られた「2係数相当分」を経営側に求めてきた。職場ではともに働くJR労働者に組合員が「賃金引き上げ」の必要性和「団結」を訴え、東日本ユニオンに連日、賃金引き上げを求める「声」や生活の苦しさを訴える「声」が多く寄せられた。その「声」がJR労働者共通の課題となり、経営側に賃金引き上げの要素と認識させ、ベースアップの実施とともに削られた「2係数相当分」を取り戻すことを実現した。しかし、職制ごとに格差をつけたベースアップ回答は等しく奮闘しているJR労働者を選別し、経営側自らが現行の人事・賃金制度を歪める行為であったといえる。

2023年度夏季手当の取り組みでは「年間最低6.0ヶ月以上の期末手当水準に戻す」ことを柱に、職場から要求実現にむけた運動をつくりだしてきた。6月7日に示された低額回答に対し、私たちは「追加支給の実現のために東日本ユニオンを応援してほしい」とJR労働者に呼びかけ、一体感をつくりだしてきた。これからもJR労働者が平等かつ公平に報われ、定年退職まで安心して働くことができるJR東日本をつくるために、全組合員とともにJR労働者の力の結集に挑戦していく。

私たち東日本ユニオンは結成時に「公平・公正で明るく働きがいのある職場の創造」と「労働条件の向上」そして「誰からも信頼される労働組合の創造」の実現を掲げた。未だ道半ばであるが、労働組合への加入にあたり東日本ユニオンを選択していただいた仲間たちが数多くいる。このことに自信をもって、全組合員で労働組合としての質を高め合い、さらに団結を強化し、組織拡大を実現していこうではないか。

以上、宣言する。

2023年 7 月 5 日
JR東日本労働組合
第12回定期大会